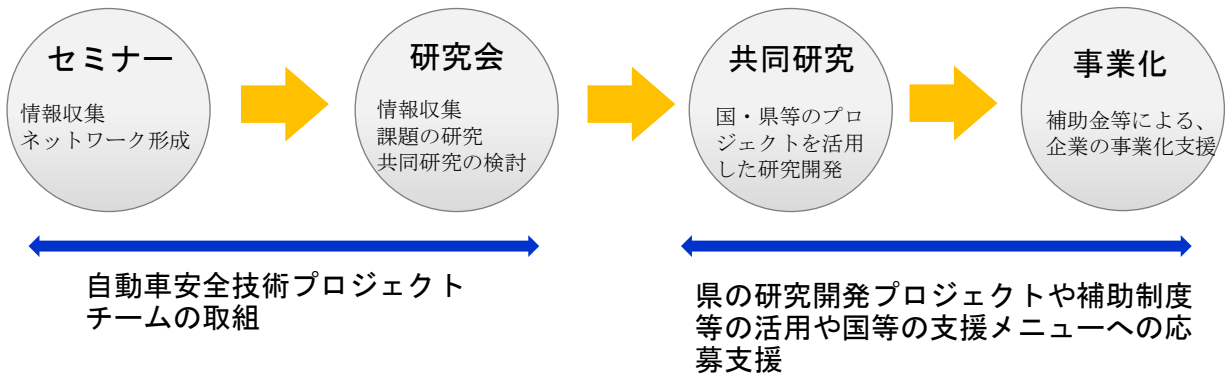


自動車安全技術開発支援事業について

1. 目的

産学行政連携により、セミナー及び研究会を開始し、中堅・中小企業による自動車安全に寄与する製品開発の取組を促し、オールあいちでの自動車安全技術の研究開発を推進。



2. 平成 29 年度取組内容

(1) 研究者情報のリスト化及び公表

県内大学で自動車安全技術や交通事故防止に関する研究を行っている研究者のリストを作成し、県の Web サイトで公開。(平成 29 年 3 月末 : 15 大学 79 名)

(2) セミナーの開催

自動車安全技術関連の県内大学の技術シーズや、製品化に成功している企業の事例等を紹介するセミナーを開催。

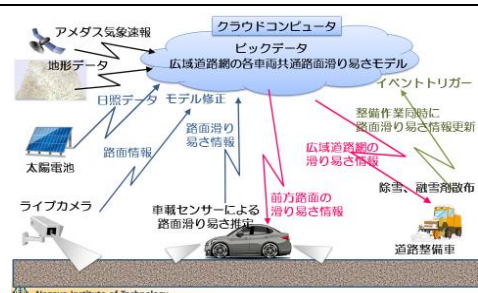
第 1 回 H29.10.2	(株)豊田中央研究所 リサーチ・アドバイザー 脇田敏裕 氏 「自動運転のための走行環境認識」 愛知工業大学 情報科学部 情報学科 教授 中條直也 氏 「安全運転を支えるコンピュータ・システム ～自動運転に向けた現状と課題～」 【出席者】 27 名 (企業 20 名(内中小企業 11 名)、大学・研究機関等 7 名)
第 2 回 H29.11.2	英弘精機 (株) 専任マネジャー 内堀崇 氏 「路面状況把握による安全性の確保」 愛知県立大学 情報科学部 教授 小栗宏次 氏 「世界一賢い“知的道路”による自動車安全技術開発」 【出席者】 39 名 (企業 25 名(内中小企業 20 名)、大学・研究機関等 14 名)

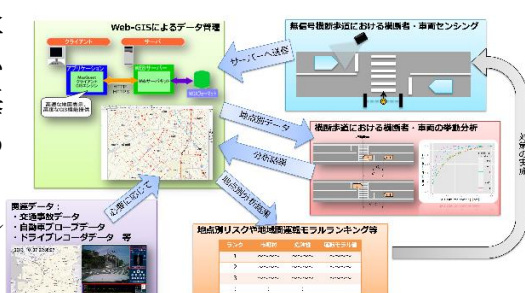
(3) 研究会の開催

平成 29 年度は最終年度として、平成 28 年度から実施した 2 つの研究会において、研究開発すべき課題・技術動向の把握等を行い、研究開発プロジェクトに向けた検討などを実施。

両研究会とも今後も、国等へのプロジェクト提案や、研究会メンバー間での共同研究の実施など可能性について検討を実施。

○研究会の概要

研究会名	IoTによる走行リスク予見技術研究会
座長	名古屋工業大学 電気・機械工学専攻 浅野勝宏 教授
構成	2 大学・研究機関、7 企業、4 団体等 21 名
概要	<p>異常気象が常態化し、走行時の自然リスクが拡大する中、走行路面のリスク予見技術が不可欠となっているため、これまでの様々な取組を討議等で情報共有し、IoTを活用して統合した時の効果予測や課題抽出等を行う。</p>  <p>The diagram illustrates an IoT-based driving risk prediction system. It shows a central cloud computer (クラウドコンピュータ) receiving data from various sources: Amegas weather reports (アメダス気象速報), terrain data (地形データ), solar panel data (太陽電池), and live cameras (ライブカメラ). The system processes this data to create a big data (ビッグデータ) model for predicting road slipperiness (広域道路網の各車向共通路面滑り易さモデル). This model is used to provide slipperiness information (路面滑り易さ情報) to vehicles via sensors (車載センサーによる路面滑り易さ推定). The system also includes a model correction (モデル修正) process and an event trigger (イベントトリガー) for updating slipperiness information during maintenance (整備作業同時). Other components include road information (路面情報), road slipperiness information (路面滑り易さ情報), and road slipperiness information for the next road section (前方路面の滑り易さ情報). The system is supported by a cloud computer (クラウドコンピュータ) and big data (ビッグデータ). The diagram is credited to Nagoya Institute of Technology.</p>
開催状況	4 回(平成 28 年度:2 回、平成 29 年度:2 回)

研究会名	ビッグデータ活用型交通安全管理システム研究会
座長	豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 松尾幸二郎 助教
構成	4 大学・研究機関、6 企業、2 団体等 31 名
概要	<p>ビッグデータを活用した、交通安全のためのデータ管理・分析システムの構築に向け、現場での経験に基づく従来手法とデータから得られる知見との有機的な融合を図るため、研究事例紹介やニーズ紹介を通じた議論・課題抽出等を行う。</p>  <p>The diagram shows a big data utilization system for traffic safety management. It features a central 'Web-GISによるデータ管理' (Data management by Web-GIS) component. This system is connected to various data sources and processing units. On the left, there are 'Web-GISによるデータ管理' and 'Web-GISによるデータ管理' components. On the right, there are 'Web-GISによるデータ管理' and 'Web-GISによるデータ管理' components. The system is used for 'Web-GISによるデータ管理' and 'Web-GISによるデータ管理'. The diagram is credited to Nagoya Institute of Technology.</p>
開催状況	5 回(平成 28 年度:2 回、平成 29 年度:3 回)

【参考（平成 27 年度研究会）】

- ・眼球運動を指標としたドライバ状態検知技術の実用化
- ・交通事故低減のための安心安全管理技術の開発



知の拠点重点研究プロジェクトⅡ期に採択

3. 平成 30 年度取組内容

- 研究者情報の更新
- セミナーの開催（2 回）
- 新たな研究会（2 件程度）の開催